

令和5年度（2023年度）埼玉県立小児医療センターにおける看護職員の負担軽減計画

R5年度（2023年度）度4月現在の看護師等の状況	これまでの取り組み及び今後の目標
1. 看護師 常勤 561 名、非常勤 6 名 2. 看護補助者 常勤0名、非常勤 59 名 3. 常勤看護師の平均実労働時間 平均8.43 時間 （最大10.18時間、最小 7.75 時間） 4. 夜勤回数 平均 3.7 回／月（2交代制） （最大 9 回、最小 0 回） 5. 育児支援制度利用者 91 名	当センターでは、勤務する従事者全てにとってのワークライフバランスの重視及び医療安全の観点から、看護師の負担軽減と処遇の改善を図るため、看護師と他の医療従事者や看護補助者との業務分担の推進を継続してきた。 また、育児世代の定着を図るために、院内保育の維持、育児短時間勤務の積極的な活用を継続している。 今後は、チーム医療を更に推進させるため、医師のみならず他（多）職種との業務分担を図り、小児患者に対する当センターの機能を十分に発揮し、地域の小児看護を充実させていく。

項 目	R4年度（2022年度）までの取り組み	現状	R5年度（2023年度）の目標	R5年度（2023年度）末 達成状況
業務量の調整	・部署内研修（OJT）の継続 ・時間外会議の削減 ・看護記録時間の削減 ①クリニカルパスの活用 ②重複記録の見直し	・OJTの学習会（動画聴講含）を実施することで、部署内研修（OJT）が確立できた。 ・各部署の時間外会議削減に努めた。 ・看護記録時間の削減：病床利用率の上昇もあり、時間外記録時間30分（前年度22分）と増加している。 ①クリニカルパス新規20件、改訂31件、家族用新規17件、改訂6件、適用率40%と上昇した。 ②記録の見直しを実施し、重複記録は減少した。 - 次年度導入調整実施：AmiVoice（音声入	・看護記録時間の削減 - AmiVoice（音声入力） - HCbooks（看護の可視化、記録効率）導入 ・委員会活動の効率化（会議時間の変更、運営内容の検討）	・AmiVoice（音声入力）を9月に導入し、テンプレートを活用した入力の推進を継続実施している。 - HCbooksは10月より導入し、ケア項目登録の短縮を図ることができ、時間外記録時間は22分へ短縮した。 ・2つの委員会で会議を午前中へ変更した。各委員会を実施している調査などを簡略するなどの運営内容の検討を実施した ・時間外勤務時間、平均9.時間28分で前年より43分短縮した。（2月データ）
看護職員と他職種との業務分担	・薬剤師の病棟薬剤業務の導入（PICU, HCU）	・HCUでは、病棟薬剤師が定数の見直し業務を実施している。	・病棟薬剤師へのタスクシフト	・12A病棟に病棟薬剤師業務が開始となり6部署となった。
看護補助者の配置	・入退院支援センターへの看護事務補助員の配置 ・看護事務補助の業務整理・拡大	・入退院支援センターに毎日1名配置し入力作業を実施している。 ・看護事務補助の退職等もあり、業務拡大はできなかった。 ・看護補助者のローテーションを実施し、支援体制ができるようにした。	・夜間看護補助者の体制整備 ・看護補助者の業務整理・拡大	・GCU（一般床）での夜間補助者の受け入れを開始し、3名/日の体制を整備し業務内容も確立した。
多様な勤務形態の導入	・早番/遅番などシフト勤務の活用 ・病棟/外来看護一体化運営の促進	・各部署の業務量に併せて、遅出・早出を調整することで時間外削減ができた ・外来業務ができる病棟看護師トレーニングを実施し、外来担当看護師数を増やすことができた。	・早番/遅番などシフト勤務の活用 ・病棟/外来看護一体化運営の促進	・各部署で業務量に合わせて、早番/遅番を調整した。 ・外来業務を実施できるスタッフの育成を計画的に実施することで、外来看護の質向上を図ることができた。
妊娠、子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	・男性看護師の育児休暇取得の推進 ・育児休暇取得後の復帰計画支援	・男性看護師の育児休暇取得の推進 3名の男性看護師が取得 ・育児休暇取得後の復帰計画支援 - 復帰前に面談し、働き方を相談	・男性看護師の育児休暇取得の推進 ・育児休暇取得後の復帰計画支援	・男性看護師の育児休暇取得の希望に対応した。計4名が取得した。 ・育児休暇取得後の復帰計画支援を実施し、部分休業の活用者が増加した。
「取り組み」の周知	・看護師のノー残業取得率のモニタリング ・看護師の超過勤務時間のモニタリング	・看護師のノー残業取得率、超過勤務時間を提示	・看護師のノー残業取得率のモニタリング ・看護師の超過勤務時間のモニタリング	・看護師のノー残業取得率、看護師の超過勤務時間のモニタリングを毎月提示した。